

橋りよう視察、技術研さん

県コンクリート診断士会

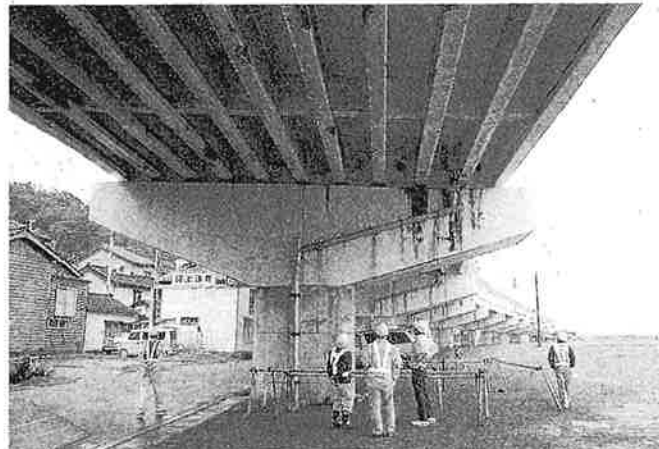
新潟県コンクリート診断士会(会長・地濃茂雄新潟工科大学名誉教授)はこのほど、16年度第2回現地研修会を開き、糸魚川地区の橋りようを視察し、参加した会員は診断技術の研さんに励んだ。

対象の橋りようは、弁天大橋(1969年竣工)、青海川橋(1967年竣工)、歌高架橋(1975年竣工)。現地では、北陸地方整備局高田河川国道事務所から、研修の参考にと「糸魚川地区橋りよう架替」に関するパンフレットが配布され、参加者は悪天候の中、それぞれの橋りようを観察した。

参加した木戸生コ

の池浦一雄本社工場長(新潟県生コンクリート工業組合・技術委員長)は、悪天候により十分な視察ではなかったとしながらも、「3橋とも補修履歴は多くあり、劣化の原因は波しぶきが直接橋にかかったり、また風によって運ばれる飛来塩分がコンクリート内部まで浸透し、内部鉄筋の腐食などあるが、一部でアルカリシリカ反応による劣化と推測。補修履歴看板には、複層型弾性フッ素樹脂塗装やエポキシ樹脂塗装の表示が見られ、さらに2スパンほど電気防食対策がなされていた」と分析した。

参加した木戸生コ



糸魚川地区で研修会

老朽化や塩害などのため、13年3月に着工した歌高架橋架替について、池浦氏は「新設工事には、耐久性向上に十分な塩害対策の要求に基づいて品質管理された生コンを現場に届けることが、生コン工場の使命として心掛けていきたい。そして確実な施工・維持管理が行われ、長寿命化された構造物の将来を楽しみにしたい」と感想を述べた。